

大阪市の街路改良

大阪市都市計畫部總務課長 岡崎早太郎

「一」水の都に陸路

大阪が誰謂ふとなく水の都と推稱せられたる所以は水を利用するに於て至らざる所なきまでに發達せる觀を呈せるが故であらふ。謂ふまでもなく大阪は淀川と其の支流の成せる三角州の上に築かれた市街であるから水利の至便もあれば、恐るべき水害も來るべき筈だ。茲に生れ、茲に長じたる者が水に馴れ、水を利用し、水に執着を持つことの深くして多き亦奇とするに足ら無いのである。然るに此の水の都たる大阪が現存の水路と比較すべくもあらぬまでに雄大なる規模を以てする陸路の開設と改良を企て其の全力を茲に傾注し以て開都三千年來の面目を一新せむとする一事は寧ろ驚異に價すべき珍事ではあるまい乎。

今次大阪の計畫し實施し手に手を染めつゝある所謂道路事業は(一)街路新設及擴張、(二)路幅整理、(三)舊道路面鋪装(四)橋梁改築、(五)建築敷地造成の五種である、就中(一)街路新設及擴張事業として行はむとするものは、路幅二十四間のもの一線二、四六三間、同十六間 一線 二、〇五〇間、同十五間 六線 一一、八六五間、同十三間 三線 三、七二九間、同十二間 十五線 一一、九三八間、同十間 三線 一、七二六間、同八間 二線 二、〇八〇間、同七間 九線 一二、〇七〇間、合計四十線 延長實に四萬八千九百二十一間 二三三弱を算し之が爲に民有地を買収すべきもの三十五萬七千坪に及ぶと謂はれて居る。

(二)路幅整理 名所名物に乏しき大阪に不良の意味に於ての一大名物がある。白日尙ほ青天を眺め能はない街路の存在が夫れだ。由來大阪の路幅は東西線が二十六尺 四間三分 〇

南北線が二十尺二三間三分Ⅱを定規とした。之が開設當時は萬坪を舗装すべく加へたるも亦當を得たる措直たるを失はな
 兎も角とし現代都市の街路としては素より頗る付きの貧弱た
 るを免れない。然るにその貧弱なる街路が市民の往來に便す
 る軒下大道てふ美名の下に私人の占用に任せ彌が上にも狹隘
 を致し遂に現在の體たらくと化つた。所謂路幅整理は街路改
 良の第一歩として之が整理恢復を爲さむとする趣旨に外なら
 ない。この事業の遂行に因り回復せらるべき路敷の面積は實
 に六萬七千坪の多きを算ふ。要するに特殊の道路改良を行ひ
 依て不良名物の絶滅を期せむとするのである。

(二)舊道路路面舗装 路面改良の唱道は現に急霰の塗丹屋根
 を打つが如く喧傳せられあるが大阪には疾に被覆せられた道
 路があつた。石敷路や瓦を豎に突き込だ如きもので勿論現代
 科學の精を究めた組織的のものではなかつた。さり乍ら路幅
 や系統に於て貧弱なる大阪として斯かる比較的に進歩した良
 路面を所有した。けあつて後年泥濘脚を没するてふ惡路面に
 満足する筈はない。彼れが夙に路面の改良を唱へて止まなか
 つたのは蓋し其の傳統的觀念から來たと見るべきであらう。
 市民の求むる所既に斯くの如くであるから此の要求に應ずべ
 く過去數年に亘り可なり廣く且つ大に之が改良を行ふた事績
 もある。市の理事者が今次の計畫に些少ではあるが面積十八

萬坪を舗装すべく加へたるも亦當を得たる措直たるを失はな
 い。然れども道路は百二十五萬坪であるから十八萬坪は僅々
 七分一に當り量に於て大と謂ふことは可能ぬ。只財政不如意
 の今日之を加へたことを諒とし更に今後の大成に待つの外は
 あるまい。

(四)橋梁政策 水の都たる大阪の橋梁は其の數實に四百五
 十五の多きを有するも耐久的素質を具備するものとしては僅
 かに六十橋に止まり他は悉く木材を主要材料として建設した
 るものなれば辛ふじて日常交通の用に供し得べしとするも重
 量貨物の頻繁に往來輸送せらるゝ商工都市現代の設備として
 は相應はしからぬことを免れない。殊に震火の災害に備ふる
 見地から見れば眞に鏹一文の價値も認められないのである。
 須く不朽不燃の夫れに改築する所なくてはならぬ。然れども
 斯かる多數の橋梁を舉げて悉く耐久的構造に改築する如きは
 一朝にして克く行ひ得る所ではない。故に今次の計畫に於て
 は(一)街路新設及擴張事業に屬する五十八橋Ⅱ。市内の分Ⅱ。
 電氣鐵道所屬の夫れとして改築すべき四十五橋の外樞要街路
 所屬の八十二橋を擇ひて之を改築し總數二百四十五の耐久的
 橋梁を得ることとした。

(五)建築敷地造成 街路の開設及改良の齎す利益の全量を

完全に享受し活用せむと欲せば勢ひ街路の沿線に於ける全地域に對し普く土地の區劃を整理し街路に相當する建築敷地を造成するの舉に出でねばならぬ。然れども今次の計畫の如く開設又は改良せらるべき街路の多數が現市街の中樞區域に在る場合に於ては到底斯かる積極的施設の實現を許さない。従て特に必要ある所謂特殊地域を除くの外は之が解決は漸次行はるべき建築改善の時期に待つの外はあるまい。とは謂ふもの、現に人家の密集しない地域に在りては街路の開設と同時に附近土地の區劃整理を行ひ建築敷地を造り將來地劃の複雑不整なる現市街の覆轍を履むことなきを期し、同時に街路新設又は擴張に因り住居を失ふ者を收容すべき場所を作らなくてはならぬ。この計畫に於ては無慮二十八萬坪の土地を買収し之を整理し所要の補助道路を設け二十二萬餘坪の宅地を造成し以て現代的建築敷地の範を示すと共に如上の目的に資することゝした。

「二」 水陸兩路の並行

憶ふに大阪市が經濟都市として其の使命を全ふすべく必要なる施設を整へ之が改良の實行を訴ふるは一朝の故では無い。即ち明治十九年時の大阪府會は全會一致の議決を以て速

かに市區改正實施の計畫を樹てむことを大阪府知事に建議したではない乎。爾來日進の文明は公私の制度組織に幾多の變更を要求し又屢々諸般の變化を見た。而もこの一事のみに關しては三十有餘年の久きに亘り終始一貫して些の齟齬を來したることなく以て今日に至れるは歷々事實の證明する所である。蓋し往昔に於ける大阪市の自ら水の都と稱し巧に運河水路を穿ち日常需給の物資は之が輸送配給を舉げて水運に委し其の街路に至ては人の歩行に堪ゆれば是れ通れりとして深く顧みる所なく、剩さへ其の幅員の極めて狹隘なるに拘らず尙ほ私人の占用を觀過し後年の交通に至大の障害を遺すべきを察せず。従て何等之に備ふる所なかりしのみか市内人口の集積に因り市勢荐りに膨脹し餘瀝の迸る所周圍村落に蔓延し殆ど底止する所なき狀態に遭遇するも陸路交通の設備に關し適當の用意を爲さなかつた。而して勢の向ふ所市の内外を通じて過群密居の狀態に陥るも未だ覺醒する所なく見て以て農村の都市化と爲し逐次無雜作に市域に併合したる結果、交通は逼迫し、空氣は汚濁し、消火水防の如き避難除害の作業を要する場合に當りて進退の自由を失する等日常市民の生活に甚大なる拘束を受け、活動の餘地を壅塞せらるゝに至り始めて全市民の覺醒と化り遂に大聲疾呼改善の急を叫ぶに至つたもの

ではあるまい乎。

水都の誇り素より可し、否商工經營を基礎とする經濟都市に於て水運の利を聞くを要し、力を之が施設に傾注するもの古今東西を通じて毫も異なる所なしと謂はれてある。然れども徒らに水上運輸の利のみに眩惑し陸路交通の便を閑却するが如きは素より現代進歩せる都市住民の要求に副ふ所以では無い。況むや夙に巨大の人口を抱擁し年々無量の物資を集配し膨脹的進度の著き大阪の夫れに於てをやだ。

顧みれば大正十一年末に於ける市内の現任人口は百三十五萬八千に達し、之に大阪を活動の本舞臺とする周圍町村の六十二萬餘を加ふるときは實に百九十七萬八千の多きを有し、この多數住民に依り生産せらるゝ工藝品の價格は平均年額五億七千三十七萬圓に大正八年より同十年に至る三ヶ年の平均額に算す。而して又海陸兩方面より出入する物資を一千五百八十萬噸と算せしは大正十年末に於ける運輸統計の指示する實數である。而かも此の數は大正元年末の一千百八十萬噸が同六年末に一千四百九十萬噸となり、その後一進一退を経て茲に安定したる數字なれば將來に於ける出入物資は逐次増加こそすれ減退の虞ありと見ることは可能ない。然るに斯かる多數市民活動の要衝にして物資配給の重要機關たる街路

中、軌道を敷設せる少數を除けば他は悉く狹路隘道で就中の最大のものとも雖も幅員二十六尺を超す、其の小なるものには白日尙ほ青天を望み得ざるものさへありて市の内外を通じて至る所往來頻繁を極め常に肩摩毆撃の雜沓を演じ、營に勞力と時間を勞費し、惹て活動の能率を減退せしむるが如き物質的損耗の大を致すに止まらず、更に通風を妨げ、探光を遮り、市民の精神を不快に導き、身體の健全を害し全市を驅て不健康都市の標本たる汚名を蒙らしめたるもの寔に故なきではあるまい。

以上の事たる過去及現在に於ける大阪状態の一斑を叙するに止まり素より其の全豹を盡すものには無い。若し更に進むで仔細に觀察せむか到底筆紙の克く現示し能はないものがあるであらう。而かも斯かる不健全、不統一に加ふるに亂雜汚醜を以てする原因は實に街路設備の不良に存することは又縷説を用ゐずして明かなる所である。即ちこの不健全を醫し、不統一を改め、亂雜を整へ、汚醜を一掃する方法として街路改良を措て他に途なきを奈何せむ、換言すれば大阪市に於て消費を節約し、浪費を減少し、財政を緊縮し、行政を整理し、更に市民活動の能率増進を圖らむと欲せば如何なる犠牲を拂ふも街路の改良に全力を傾注するを以て其の第一義と

せなくてはならないのである。

想ふに、街路改良事業を執行する必要は現代都市通有の事項であつて必ずしも大阪市にのみ必要の夫れでは無い。従て之が緩急の程度に付ては自ら別あるであらふ。蓋し多くの都市は其の將來の爲に街路改良を基本とする所謂都市計畫を行ひ、後世子孫をして長へに其の惠澤に浴せしめむことを唯一の目的とするが如き觀を呈して居る。大阪市亦勿論この目的を度外に置くものでは無いが他に更に大なる目的なき能はない。即ち之を爲さねば現代市民の健康は益々惡化し、其の生活は愈々窮迫し、其の産業は次第に萎靡し、其の道徳は漸次頹廢し、遂に文化の源泉たる都市の精華を滅亡せしめられむことを恐るが故である。

「三」 大阪と地震

大阪に於ける街路改良の必要は單に物質的効果を一時に獲得せむとするに止まらず更に切迫せる一大必要の存するものがある、他なし關東地方を襲へる大震災の與へたる教訓に鑑み將來災殃の襲來に方り避難除厄の爲に一條の血路を開き置かむとするもの亦目的の一である。所謂關東震災の齎らせし害禍は極東文明の魁と誇れる東京横濱の二大都市に向て極

度に其の暴威を揮ひ、一夜にして克く荒涼凄慘の街たらしめ、人をして悲惨と驚異の感に堪へざらしむるものがあつた。大阪市は震源地を距ること遠く幸にして這般の災禍を免れ得たりとは謂へ親く慘害の跡を目撃し、徐ろに東京市及横濱市の街路の配置結構と大阪の夫れとを比較研究するに於て轉た寒心に堪へざるものなきを得ない。若し不幸にして施設萬端の東京に劣れる大阪に此の災厄の來りたる場合を想像し、更に數層大なる悲惨事の出現あらむことを思ふ眞に漫ろに身毛の彌整つを禁ぜむとするも能はざるなきを得ぬ。

蓋し地震は關東地方特有の災禍でなく今後關西方面を襲はずと謂ふことは可能ない。否寧ろ地震襲來の歴史から見ても大阪を中心とする關西に此の事あるべしと豫觀し之に處すべく避難の途を求むる亦必要の作爲ではあるまい乎。之に關し地震學の泰斗と稱せらるゝ今村博士は今回の地震は關東地方に起つたが今後多少の年月を経たる後に來るべき大地震は寧ろ關西に近き位置にあらざるなきかと思はしむるものがある。殊に大地震を大阪に波及せしむべき地震帯として擧げ得べきものに三箇の夫れがある。即ちその第一は外側大地震帯、第二は濃尾伊勢伊賀大和より阿波に連る地震帯、第三は淀川筋地震帯が是れだ。所謂外側大地震帯に付きては大阪

市は度々惱まされた歴史がある。元祿十六年十一月二十三日の房總半島南東沿岸の大地震から五年の後即ち寶永四年十月四日紀州沖に大地震、大津波を起し紀伊の國から東海道を超えて東山道に及び高さ七八十尺の津波が土佐の沿岸に襲來し大阪亦その餘波を蒙り相當の損害を受けた。同年十一月二十三日の富士山の噴火も亦之に誘因せられたと稱せられて居る。又、安政元年十一月四日朝の駿河沖大地震は激震を東海道一面に波及せしめ、且つ寶永と同じく津波を起して之を廣大なる地域に波及せしめ大阪市も亦相當の動搖があり當夜市民は全部露營せるのみならず有福な人々は河船に避難した。その翌五日の夕刻に至り紀淡海峽沖に前日以上の大地震が興り大阪市内にも多數の潰家、半潰家を生じたのみでなく、更に東は伊豆の沿岸より西は九州の南端に及ぶ廣きに亘り津浪を伴ひ中にも紀淡海峽を此へ侵入したものは大阪灣から木津川口と安治川口とへ侵入し、川筋を溯る津波は高さ一丈位、蒲鉾形を成し中央の高き所に大小の船舶を載せ乍ら進行すること矢よりも早く兩川口より東横堀川に至る間に在りし總ての橋梁を悉く破壊し去つた。之が爲には前日來河船に乘じ水上に避難した市民のみでも溺死した者が四百人を算へた位であつた。又近く明治二十七年三月二十二日根室沖の大地

震には根室及釧路の市街に潰家を出し、津波が船舶を没へる位であつたが二年の後即ち同二十九年六月十五日には陸中の沖合に於て非常に大なる地震を興した。この地震は震源に近き陸地が片麻岩の層なりしが爲めに地震直接の損害は皆無なりしも大なる津波を起し三陸沿岸に於て二萬七千の死者を生じたことは今尙ほ世人の記憶に新なる所であらう。勿論地震は必ずしも前後一對を爲さざる多少の例外はある。然れども若し大地震の直後短き期間を隔て、第二の夫れが來るときは前示諸例の如く多くの場合に於て稍々離れたる場所に起り、しかも其の場所が多く西又は西南に移り行くを例とするは明かに歴史の訓ゆる所である。斯かる事例に鑑みこの外側大地震帶の將來を推測すれば今回の大地震に引續き多少の年月を経過したる後に於て來るべき次回の大地震は關西方面でなくてはならぬ結論となる。

第二の地震帶たる濃尾、伊勢、伊賀、大和より阿波に連る夫れに屬するものとしては正平十六年六月二十四日大和、紀伊及阿波に亘れる大地震や安政元年六月十五日伊賀、伊勢、大和等に興れる大地震等過去の地震に依りて既に充填され更に大阪附近に於て大地震を起すべき餘地なきが如きも、所謂淀川筋を辿れる第三の地震帶に於て慶長元年閏七月十二日死者

二千人を出した伏見大地震があり、次で六十八年後の寛文元

はならぬ。

年五月一日琵琶湖西南岸に於ける大地震には死者五百人を算し、更に百六十八年後の天保元年七月二日京都附近を襲へる夫れに百五十人の死者を出した記録があるから最早京都附近は淀川筋系の地震帯に於て更に大なる地震を興すべき餘地なきと觀察することも可能なる。反之、大阪は過去一千餘年に亘りこの地震帯に於て起れる大地震の記録なきが故に以上の諸點より綜合すれば大阪市は次回の大地震に對し多少の不安を考へざる譯には行くまいと喝破した。眼前に關東地方大震災火災の慘害を見せられ今又この豫言を浴びせられたる大阪市民たる者如何ぞ之に處すべき策なきを得やう乎。

〔四〕 街路改良の眞目的

吾人は學者や、豫言者や、賣卜者の研究斷定を聞き、直覺的に樂觀したり、悲觀したりする者では無いが非常の場合に方り非常の措置を探り、所謂災禍に遭ふて善處するに差支なき程度の用意や覺悟は平素事なきの時、徐ろに整へ置く必要あることを痛感する者である。之が爲に差し當り、若し不幸にして這般の災殃が大阪を襲ひたりと假定し、この場合大阪が如何なる程度の慘害を被るべかりし乎を考察する所なくて

顧みるに震災前の東京は總人口二、二六五、三〇〇、世帯數四八三、〇〇〇であつた。その東京が震災の爲めに世帯數で、三〇八、二七五、家屋數で、二九三、四九三、を燒失又は倒壊せしめ、一四二、六二六人の死者、傷者又は行方不明者を出し、罹災者の總數は實に一、三三三、五四〇人の多きを算せしめた。而して之を横濱市に看るに其の總人口、四四六、六〇〇、人、世帯數、九八、九〇〇、であつたものが是又震災の爲めに世帯數では、九三、八三〇、を、家屋數では、七三、九七五、を燒失又は倒壊し、六八、六七六人の死者、傷者若は行方不明者を出し、四二二、八九六人と謂ふ罹災者の總數を示したのである。即ち東京市では人口一千に付六十三人の死傷者又は行方不明者と、五百八十九人の罹災者並に世帯數一千に付六百八十三の被難世帯を出し、横濱市では人口一千に付百五十四人の死傷者又は行方不明者と、九百二十五人の罹災者並に世帯數一千に付九百五十一の被難世帯を出したこととなる。この統計を得たる吾人は兩市慘害程度の意外に激甚なりしに驚き幾度か其の過誤にあらざるなき乎を疑ひ數回檢算を試みたるも些の誤算なきを知りて一層悲愴の感を深くした。更に一度悲愴の眼を開き、涙を拭ふて兩市

被害の程度を比較し東京市に比し横濱市は死傷者又は行方不明者に於て二十四割強、罹災者數に於て十六割弱、被災世帯數に於て十四割弱の多きを見るに及びては酸鼻の極筆を投じて痛歎せざるを得なかつた。東京横濱の二市が相互に震源地との距離に於て大なる懸隔なかりしに拘らず其の被害に於て餘りに其の差の甚しきものありしからであつた。

想ふに横濱に比し東京に於ける被害の少かりし所以は東京市は過去三十年に亘り市區改正を行ひたる結果として其の街路は系統、幅員共に比較的には整然たりしが爲であらう。反し横濱市は其の一小部分を除くの外は未だ街路幅員の擴張を行はず。加ふるに橋梁全數二百六箇所の内其の三割六分即ち七十四橋が燒失若は墜落して街路の接續を失ひたるに因るのではあるまい乎。勿論東京市にも橋梁の燒失、墜落はある、否、その數に於ては二百九十二橋を算し、全市橋梁の總數九百十五橋の約三割二分に當る。而かも尙ほ死傷者數の少きは如何しても避難路の系統が正しくて行止まり路や袋路がなく且つ火災の間を潜りて逃避するに足る幅員の廣きを備具したるに因ると見るべきであらう。若し東京市の橋梁が悉く不燃質材料を用ひたる耐震耐火的の構造であつて一橋の燒失も墜落もなかりしならむには更にその被害は僅少で濟むだかも知

れない。

翻て大阪の街路や橋梁の現状を一覺せよ其の系統、幅員、その他の構造に於て東京の夫れに比較すべくもあらぬは素より、横濱の夫れにも及ばざること遙かに遠きに居る。横濱の施設が東京に及ばざるは前既に述べた通りであるが彼れは建設以來漸く七十年内外で、街路の系統幅員等に於て共に見るべきもの多かりしは衆人公知の事實である。然るに被害の現狀既に斯くの如しとせば若し不幸にして彼の震災が大阪を襲はむ乎、其の悲惨の狀は蓋し横濱市の夫れを超越せむは之を想像するに難からざる所である。斯かる慘害を眼前にして次回地震は大阪を襲ふべしと、歴史と學理を盡くして懇切に訓へて呉れる識者がある。大阪市民たる者奮起せざらむとするも亦得ざるであらう。勿論、天災地殃の肆襲は人力もて如何とも爲し能はぬ所であるとは謂へ。人事を盡くして而して天命を待つを以て具さに人類の探るべき最良至善の途なりとする以上は一朝天殃の襲來に方り容易く身命の保全に資すべく之が活路を開拓し置くは又以て人の人たる所以ではあるまい乎。

要するに大阪市が街路の改良を速かに斷行すべく企圖する所以のものは大別して二個の必要から來たのである。即ち一

は現在に於ける交通、衛生、保安、經濟等、市民の頭上に投下せられたる生活の窮迫より免るゝ方法として其の必要に迫られ、他の一は去歲關東地方に興れる震災の如く一朝突發せる災禍に處し及ぶべき丈け被害の程度を滅殺する手段として之を爲すの外他に採るべき策なきに因るのである。

道路の小修繕に就て

永年の月日と多額の國帑を費して周到な計畫の下に築造せられた道路が一度その竣成を看一般交通の用に供せられた後は之れに對し何人も相顧みない趣あるはどうゆう譯だらうか。大都市の電車、自動車の高速度交通機關の發達が路面を損傷することは暫く之を措くも最も奇異の感があるのは何等著しい原因もない田舎の道路に就てある、地質や地勢の關係から見れば、良好である筈の道路が甚しく汚損してゐるのは何故であるうか、これは言はずもがな道路の小修繕の放慢とか不都合とかに因ること、思ふ、しからば縣廳の土木課や、工區なり工營所なりの人々が盲目なのであるうか、必しもそふではあるまいが大體工區なり工營所なりの技術家は、道路の新築とか改築の如き、つまり派手な仕事に當りては彼の道路は俺が監督したのに捉はれたと言ふか、又は將來の名譽慾と言ふか、免に角一生懸命の努力と十倍の辛苦を掛けて速成を圖り同僚な上司なりに對する小誇張心の満足を獲ることに努めるが、小修繕に就ては吾

今や世界大戰の後を受け之に處するの方策まだ全からず、加ふるに帝國復興の爲に巨資を要するに拘らず、經濟界の狀況又順調と云ふことを得ない。この時に方り國家と謂はず、地方と謂はず各級の行政を整理し、財政を緊縮するは此の場合に處する唯一の要諦である。大阪市亦之に順應するに於て

れ關せず焉である。これは一面止むを得ない心理的現象と謂へばそれまでだがそれでは折角道路築造に費した國民の膏血の結晶である公金が浮ばれまい。

縣知事様が郡市長會議に「ヤレ道路に於ける雜草の艾除や路面の掃除は毎年何同行への撒水除雪に努むべし、此等は地元青年團又は在郷軍人團の仕事として其の効果を完からしむべし」と訓示や指示を何程なきつても實際監視や監督すべき工區なり工營所なりの人々の考が前述の如き有様では其效めは豆腐にかすがい程も顯はれぬ中には村でも熱心な區長とか土木委員とかが之を服膺して居られる處もあるがまだナカ／＼の感がある、これは一つ道路の良否は國運の消長に至大の關係ありと考へて小修繕に就ては別段の注意や特殊の技術や莫大の經費を要するものでない丈け餘計に手ぬかりの無い様によつて、一面新企の新設改築と相俟て常に其の效用を完うする様にやつて欲しいものである。(淺香生)